



©Yuki Asada

## マヤ文明の息吹をデザインに!

ザー、ザー、ザー。浜辺を歩いていると、心地良い潮騒の音が聞こえてくる。ここは、中米の国ベリーズの沿岸、カリブ海に面したトレド郡の小さな町。誰もが一面に広がる海的美しさに心奪われる。

実は、国内で最も貧しいこの地域。特にグアテマラ国境近くのマヤ村では、電気、ガス、水道もほとんど通っていない。自身の生活を支える農業以外、これとって目立った産業もない。

しかし、マヤ村の女性たちは何と言っても手先が器用。複雑な刺しゅうにも根気強く取り組む。その強みを生かして、生計向上につなげられないか。そこでシニア海外ボランティアの千葉元子さんが思い付いたのが、彼女たち手作り

の“マヤ文明グッズ”だった。

「大きなモノは製作にも販売にも時間がかかる。少額でもすぐ収入につながるようにと考えて開発したのがこのポーチです」と千葉さん。今、一番力を入れているのが刺しゅう入りの商品。この地域の人々は、マヤ暦と呼ばれる独自の暦を持っている。その暦を示す“マヤ文字”をワンポイントとして、手作りのポーチに刺しゅうするのだ。最近では町のお土産物屋でも評判で、「自分の誕生月のマヤ暦の付いたポシェットが欲しい!」という声も聞かれるようになった。

マヤの人々の思いが詰まったポーチ。2013年、このアイテムをお守りに、一年を過ごしてみませんか?



女性たちは機織り機を巧みに使い、次々と色鮮やかな布を生み出していく

★マヤ暦などの刺しゅう入りポーチを5人、織物ポーチを3人にプレゼント!→詳細は38ページへ

